

Article

TTF-1 status in early-stage lung adenocarcinoma is an independent predictor of relapse and survival superior to tumor grading.

Schallenberg S, Dernbach G, Dragomir MP, et al. Eur J Cancer. 2024 Jan;197:113474.

はじめに：TTF-1発現状態は肺腺癌においては進行度とは無関係の独立した予後因子であるとされている。しかしながらTTF-1陰性がより高悪性度な肺腺癌のサブタイプを表しているのか、低分化な形態によって説明されるのかは疑問のあるところである（However, it remains to be clarified whether a negative TTF-1 status represents a unique LUAD subtype characterized by higher biological aggressiveness or whether it can be predominantly explained by poor histomorphological differentiation.）。著者らはそのギャップを解決するため外科的切除され病理病期stageI-IIIと診断された447例の肺腺癌について詳細に検討した。TTF-1の抗体は8G7G3/1が使用され、ほんのわずかでも腫瘍細胞の核に陽性の場合、TTF-1陽性と判定された。

結果：TTF-1陽性は397(88.8%), 陰性は50(11.2%)であった。臨床病理学的背景との関係としては、喫煙年数、stage, T factor, 再発の有無が関係した。

結語：筆者らは肺腺癌においてはルーチン的にTTF-1を調べるべきだと主張していた。